

今日のトピック 豪ドルは再び上昇へ（2020年11月） 政策金利引き下げ、量的緩和（QE）追加を決定

ポイント1 豪州中銀は政策金利引き下げ 量的緩和（QE）拡大を決定

- 豪州準備銀行（RBA）は、11月3日に開催した金融政策決定会合で、政策金利のキャッシュレート及び3年国債の利回り目標を市場予想通り0.25%から0.10%へ引き下げました。足元にかけては議事要旨やロウRBA総裁らの発言内容から、追加緩和に対する期待感がより高まっている状況でした。
- また、不定期に実施していた量的緩和（QE）について、今後6か月間にかけて5-10年国債を1,000億豪ドル買い入れる追加QEを決定しました。
- 声明では「少なくとも3年は政策金利の引き上げを予想していない」旨が示され、「必要ならさらなる対応の用意がある」とし、今後の追加緩和の余地も残しました。

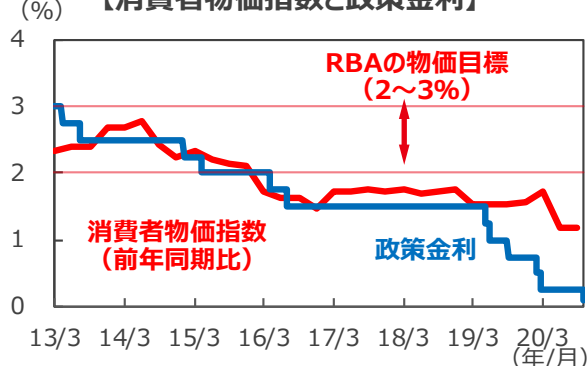
ポイント2 消費者物価指数（CPI） 7-9月期もRBA目標値に届かず

- 7-9月期消費者物価指数（CPI）は前期比+1.6%と4-6月期の同▲1.9%から上昇に転じました。また、RBAが参照しているとされる刈込平均値（CPI上昇率の上位品目と下位品目を除き計算した値）も同+0.4%と4-6月期の▲0.1%からプラス圏に戻りました。
- しかし、前年比（刈込平均値）では+1.2%と4-6月期とほぼ同程度の伸びにとどまっており、依然RBAの目標値（2～3%）を下回っています。

今後の展開 豪ドルは再び上昇へ

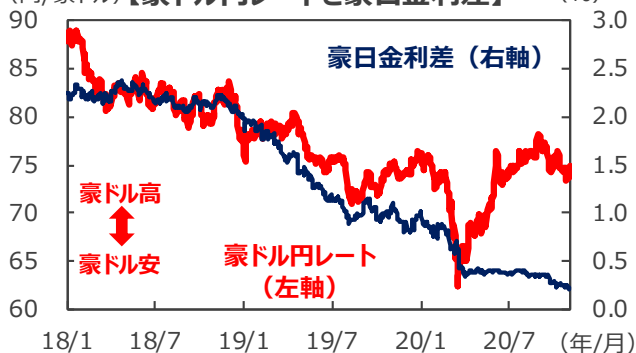
- 7-9月期CPIは伸び悩む結果だったものの、豪州では一部州における新型コロナ感染にかかわる経済活動制限の緩和など、上向きの兆しも見え始めています。さらに、今回RBAが大規模な追加緩和を決定したことで、一層の緩和期待は一旦後退している状況と見られます。今後、大統領選挙などを背景とした米国金融市場の動きや、豪州と中国との通商関係など不透明要因には引き続き注意が必要ですが、基調的には豪ドルは再び上昇に転じていくと予想されます。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2020年7-9月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2020年11月3日。
(出所) オーストラリア連邦統計局（ABS）のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2018年1月1日～2020年11月3日。豪日金利差は3年国債利回りの差。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2020年11月4日 最新 オーストラリアマーケット動向（2020/11/4）
2020年10月4日 アジア・マーケット・マンスリー（2020年10月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。